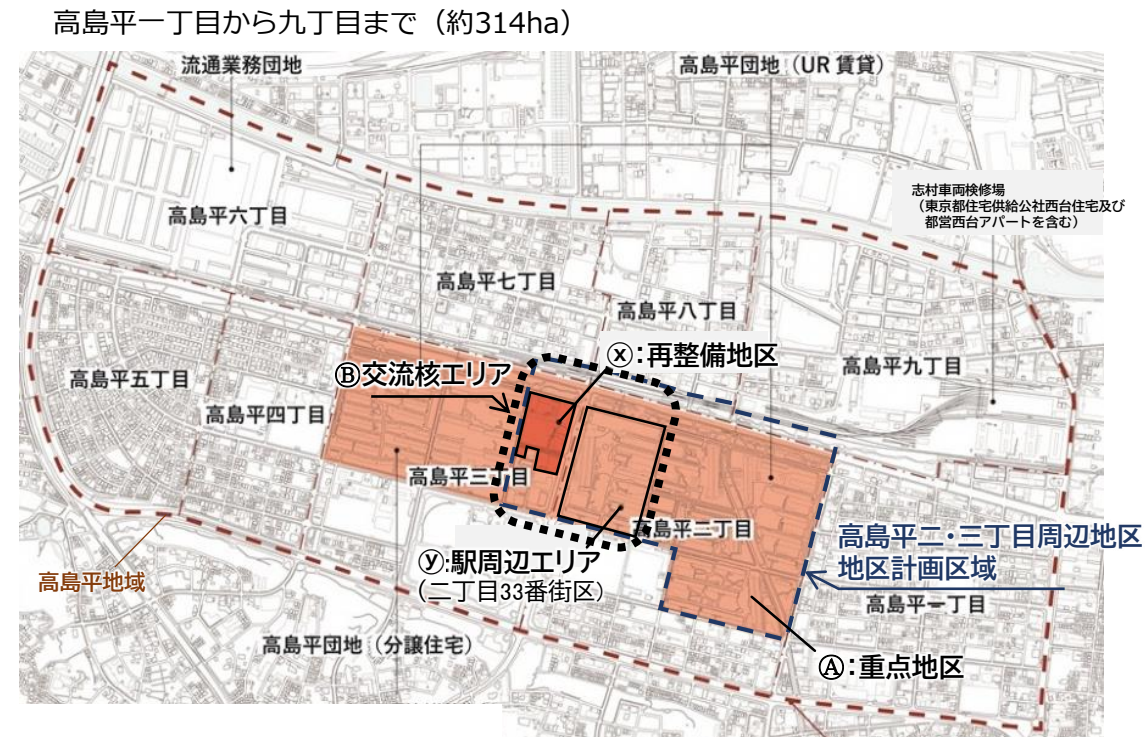


高島平地域のまちづくりの状況について

1 対象地域

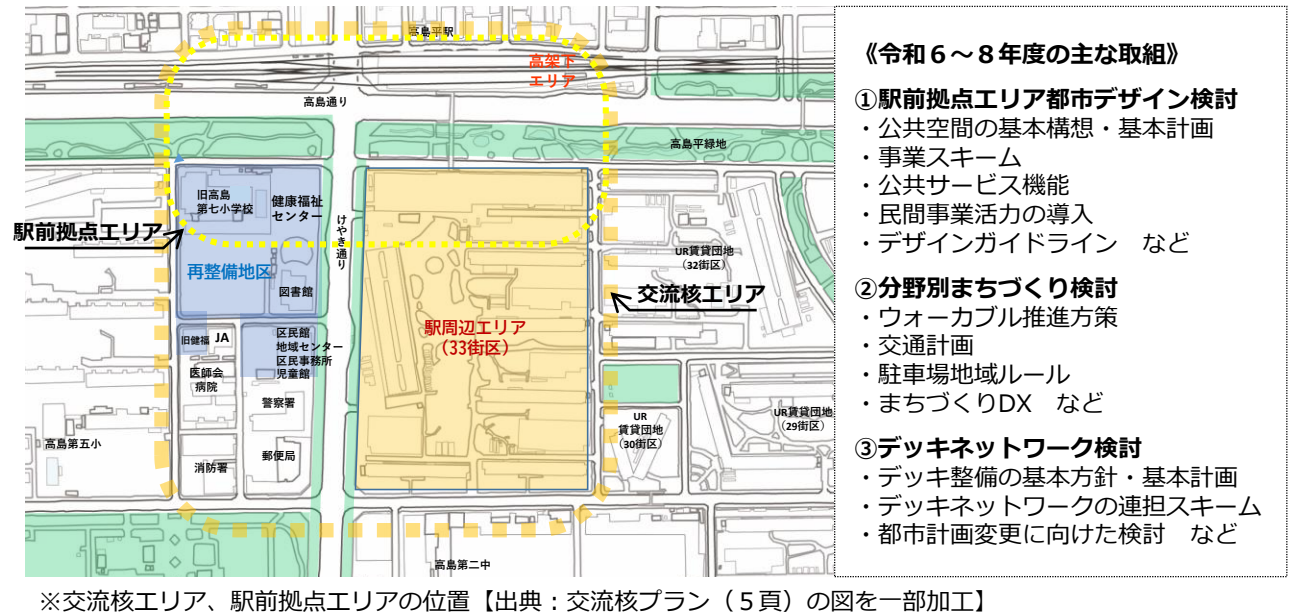


【凡例】	①：重点地区	
	都市再生を効果的・効率的に進めるための第一歩となる地区	
	②：交流核エリア	
	高島平地域都市再生実施計画に基づき、連鎖的都市再生により地域内外の交流核を形成するエリア（③再整備地区・④駅周辺エリアを含む）	
⑤：再整備地区（約2ha）		旧高七小跡地を含む公共用地
⑥：駅周辺エリア（約6ha）		二丁目33番街区（UR賃貸住宅）

2 まちづくりの経緯・予定

- 平成27年10月 「高島平地域グランドデザイン」策定
- 平成28年11月 「アーバンデザインセンター高島平」（UDCTak）設立
- 平成30年 1月 「高島平地域プロムナード基本構想」策定
- 令和 4 年 2月 「高島平地域都市再生実施計画」策定
- 令和 4 年 3月 「高島平地域の連鎖的都市再生の推進に係る基本合意書」締結【区・UR】
- 令和 6 年 3月 「高島平地域交流核形成まちづくりプラン」（交流核プラン）策定
- 令和 6 年 3月 「区・UR基本協定及び実施協定」締結
- 令和 7 年 6月 「高島平二・三丁目周辺地区 地区計画」決定・告示（予定）
- 令和 8 年 3月 「高島平二・三丁目周辺地区 地区計画条例」制定（予定）

3 交流核プランに基づく具体的な取組（令和6年度以降）



（1）交流核形成事業

①駅前拠点エリア都市デザイン検討（R6・7年度）【継続】

交流核エリアにおける地域の顔となる駅前拠点の形成に向けて、公共施設や公共空間の基本構想・基本計画の検討を行うとともに、具体の整備に向けた測量等の基礎調査を進める。

②分野別まちづくり検討（R6～8年度）【継続】

交流核の形成に資する都市基盤や都市機能を構築するため分野別方策を検討し、個別の整備計画に反映していく。

③デッキネットワーク検討（R7・8年度）【R7新規】

高島平がめざす「これまでとこれからが混ざり合うまち」の実現に向け、交流核を一体的につなぎ、地域全体へ効果を波及するためのデッキネットワークの検討を行う。

（2）まちづくりへの期待感を高める取組（準備ステップ）

※詳細は2ページに記載

4 その他

（1）まちづくりの拠点機能の形成

更なる高島平まちづくりに関する情報発信や地域住民の理解促進を目的として、引き続き、個別相談に対応しながら、まちづくりの拠点機能の形成に取り組む。

（2）UR高島平団地二丁目33街区の建替えに伴う居住者への対応

UR都市機構が今年の夏頃に、二丁目33街区の建替えにあたり、33街区居住者（移転対象者）向けの「計画概要説明会」の開催を予定している。

まちづくりへの期待感を高める取組（準備ステップ）

長期にわたり段階的に進めていく高島平地域の連鎖的都市再生では、社会変化や地域のニーズを踏まえ、ステップを踏みながら、戦略的に取り組んでいく。



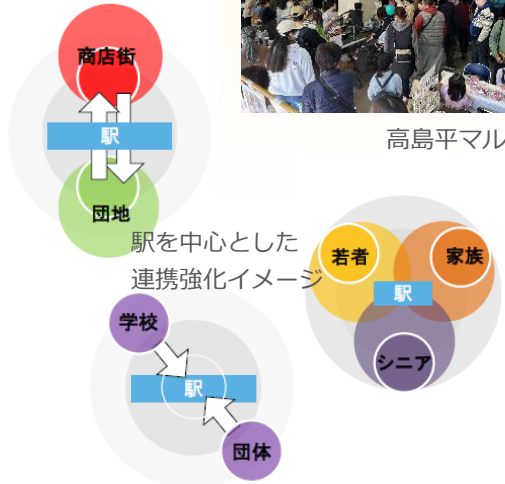
ひろまる



高架下空間（東口）
高島平駅の南北をつなぎ、まちづくりの情報発信やまちの魅力を向上させる交流機能を誘導し、まちづくりへの参画を促す拠点として東口の高架下を活用していく。



高島平マルシェ



はじまる



旧高島第七小学校

まちに変化をもたらす再生の第一歩として、令和7年度に旧高七小等の解体設計を行い、令和8年度から解体工事に着手する。また、校庭の一部を活用し、地域の活動や交流の場となる暫定的な広場（仮称・ふらっと広場）を整備、まちづくりの試行的な活動を展開していく。



第1回棟下式
・日時：3月15日
・内容：校内見学
座談会
・参加：約500名



2025.3.15 棟下式

まちの愛着醸成に向けたプロジェクト

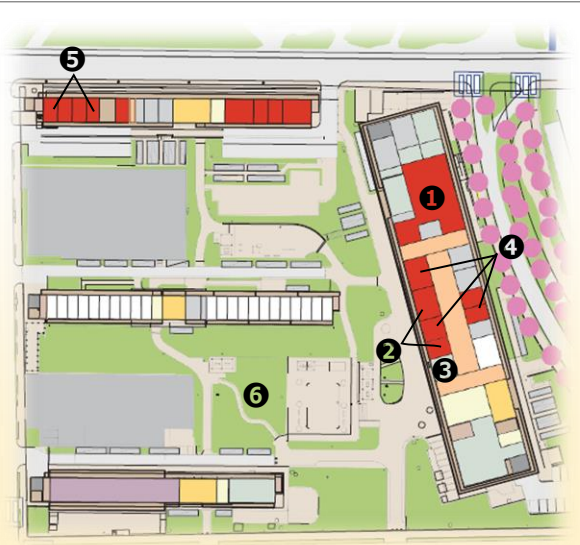
平成19年4月に閉校した高七小へのこれまでの感謝と惜別の思いを伝えるため、“棟下式（むねおろしき）”を企画し、解体工事に着手するまでの期間を卒業生や関係者と共に共有する。

あつまる



32街区（ウェルフェア拠点）

UR高島平団地の32街区に集積するウェルフェア（健康福祉）機能のさらなる充実に向けて、UR都市機構や東京都健康長寿医療センター等の関係者や庁内連携の強化により、各種施策が相乗効果を生み、シニア世代をはじめ多様な世代がいいきと暮らすコミュニティの形成に寄与していく。



現在の主な32街区・ウェルフェア機能

- ①在宅医療センター
- ②高島平ココからステーション
- ③生活支援アドバイザー
- ④クリニック・耳鼻咽喉科・調剤薬局・接骨院
- ⑤居宅介護支援事業・訪問介護サービス
・整体・マッサージ
- ⑥高島平みんなの農園